

令和6年度第8回大分県未来技術地域実装協議会 議事録

日 時：令和7年3月25日（火） 13：30～14：30

場 所：オンライン（zoom）

出席者：総務省 九州総合通信局情報通信部
経済産業省 九州経済産業局地域経済部
avatarin 株式会社 連携研究部
大分県商工観光労働部先端技術挑戦課

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 内容
 - (1) 今年度の取組状況と今後の取組について（15分）
 - (2) その他
 - ・参加者からの情報提供
avatarin 株式会社（10分）
- 4 意見交換

出席者発言要旨

（経済産業省九州経済産業局）

- ・大分県で使用している機種それぞれに特徴があるか
→ある。newmeであれば製造元が日本（大分県）である点や通信をクラウド経由でおこなっていることから、クラウドへの情報蓄積・活用が可能である点、Temiであれば、マッピング機能や自動走行などそれぞれの機種特徴があり大分県でも用途に応じて使い分けている。（大分県）
- ・葬祭事業者の実装事例について詳しく聞かせてほしい。
→職員が結婚を機に県外に転出、オンラインを通じて継続雇用している事例について、当初はzoomなどweb会議ツールのみだったが、社員教育を行う上では実際の業務の様子を確認する必要があるなど社内等を移動する必要がでたことなどweb会議ツールのみでは限界があることからアバターを実装した。（大分県）
- ・大分県内の高等学校を対象に遠隔授業がR7年度から実施され、かつ遠隔授業を補完するツールとしてアバターも活用される件について、アバターが配置される数は受信校側へ配置する数は決まっているのか。
→受信校の遠隔授業専用の教室に1台ずつ設置することから、R7年度は1台ずつを想定。今後、遠隔授業の実施数が増えていき、遠隔授業専用教室が増えていくと2台、3台と増えていく可能性はあると考える。（大分県）
- ・avatarin社のR6年度取り組みの中で、行政窓口支援の取り組みがあったが、経費抑制に繋がったなど効果検証はできているか。

→検証中であるが、狙いとしては現在過剰に人員配置している部分（時間帯）があるので、ピークタイムのみ人員を増やす、その際に遠隔地で対応できるようにアバター活用することで人員の最適化を図る、ひいては経費削減に繋がるということが見込める。(avatarin)

・ newme を活用するアイデアとして学生の活用を考えてみるのもいいかもしれない。

→実際にオフィスの近くに観光系の専門学校があるので、実際に連携して取り組んでいる実例もある。そういった取組をとおして次世代の働き方なども考えていきたい。(avatarin)

(総務省九州総合通信局)

・昨年度は軍艦島スターリンクなど衛星通信を使用した実証をおこなったと方向があったが、今年度は衛星通信を活用した実証や室外での実証や夜間の実証はおこなったか。

→今年度は実施していない。アバター自体が防水・防塵対応していないなど外に対応しておらず、今年度の事業実施方針として「実装」に注力していただくことから現時点の機能でもできる実証をおこなったため。(大分県)

・avatarin 社の空港利用の取組について、ローカル 5G 活用についてももう少し詳しく教えてほしい。

→空港など、不特定多数の方が利用される現場においては、通信が混雑することからローカル 5G などのように利用者が特定される回線であるかつ速度が速い回線が有用であると考えため今回の取組で活用。(avatarin)

(大分県)

・県内においてもアバターの認知が高まってきており、県内企業自身が自社の営業ツールとして活用する事例や新たな働き方として実装する事例など一定の成果がでてきたことから、大分県としてはアバターに特化した取組は R6 年度で終了としたい。

一方で先端技術である点については変わりがないため、AI などと同様にアバター活用に挑戦する事業者には補助金などを設けることにより引き続き支援していく。

(一同)

承知した